

## 研修参加・ドキュメンテーション実施園

# きらきらのどんぐり 城屋園舎

◦身近な自然に興味・関心を育て、触れることを楽しむ。  
 ◦友だちや保育者とやりとりしながら散歩することを楽しむ。

城屋の豊かな自然の中で日頃からよく散歩に出かけ、秋から冬への変化を身近と感じてきました。雨止りのある日、みんな大がかりなどんぐりを見つけようとして西公園に行きました。

**到着～**  
 先生！見て見て！  
 どんぐりがきらきらしてる～！

先生、これ拾ったのよ！  
 おいしくね？

あー！カニがある！

城屋の自然の中には、子どもたちが思わぬ見たり、触れたりしたくなるような物がたくさんあり、夢中になって遊ぶ姿が見られました。このような経験と大切に積み重ねていく量、感性や好奇心、思考力などを培ってきたいと思います。



#### 状況 経過

城屋園舎では少人数でアットホームな雰囲気の中、0歳児から4歳児の子ども達が異年齢で関わりながらのびのびと過ごしています。

また、豊かな緑にも恵まれており、普段から自然に触れる機会が多くあります。秋から冬へと季節が移り変わっていく時期のある日、気温の低い午前中のいつもより早い時間からみんなで散歩に出かけました。

#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

この時期ならではの自然に触れることを楽しみ、不思議に思ったり感動したりすることをねらいにしました。冬の自然現象である霜が見られる場所を把握しておき、解けずに観察できるよういつもより早い時間に出発しています。子ども達の発見、気づきに保育士がすぐ答えを出してしまうのではなく、子ども自身や子ども同士のやり取りの中で不思議に思ったり考えたりできるよう促しました。

#### 考察（育ち・学び）

散歩先で見つけた草花のいつもと違っている様子に気づき、思いを言葉で伝えていました。友達や保育者とやりとりをしていく中で「何やる？」と不思議に思ったり触ってみたいという意欲につながりました。実際に触ってみたことで、冷たさや色の変化にも気付いてさらに興味・関心が深まっています。その後、図鑑や本を見て他にも冬ならではの現象があることを知り、次の散歩で見たいと期待も膨らんでいます。



ドキュメンテーションを作品展に展示(平成28年12月中旬)  
保護者・子ども・連携小学校教師等皆に情報発信

おもしろいなあ  
先生も滑りたい！

段ボールの方がおしりより  
も良く滑る

屋根つけてみよ  
うか

段ボールの大きさ変え  
たらどうなる？



こうして破れた段ボール  
で滑り台になるやん

おもしろいで

良いこと考え  
たね

#### 状況 経過

秋が深まると毎年始まる落ち葉遊びである。バケツや手押し車に落ち葉を入れ、今年は築山の周りに沢山集まった。両手いっぱい落ち葉を抱えちりばめたり、落ち葉の山に潜ったり、ジャンプ台クッションに見立てたりと、遊びが展開していた。ダンボールでキャタピラ遊びをしていた子ども達が築山にやってきて、キャタピラで築山から落ち葉へ転がる遊びに展開していった。次に、ダンボールが破れ、写真のように、滑り台遊びへと展開していた。落ち葉集めや落ち葉へのダイビングは、3歳児、5歳児も参加していたが、このキャタピラから滑り台遊びは、4歳児が集まり、遊びが展開していた。

#### 保育者の関わり（ねらい・意図・環境）

繰り返される秋の遊びが、今年は何の様に展開するのを見守った。その中から、ひとり一人の興味や好奇心をさぐり、気づきや発見、呟きを聴きとった。

ダンボール箱、バケツ、手押し車、木ぎれなどは、子ども達が自由に使えるように、テラスや砂場近くの素材置き場に常に置いてある。子ども達が使うであろうと予測を立て、環境の一つとして用意している。

ダンボールが破れた時点で、どの様に「子ども達が素材を変化させ遊びを創っていくのか」を大切に思い、共感や期待、意欲に繋がる言葉をかけた。自分達で遊びを広げ創り出す力を付けて欲しいと願っている。

#### 考察（育ち・学び）

落ち葉遊びとジャンプ、キャタピラ遊びが繋がりを、また滑り台へと変化したとき、友達同士の関わりが深くなり、発想が豊かになってきていると感じた。「～したい」の目的がはっきりしており、楽しさを一緒に味わうことで共有し、子ども同士の繋がりも感じた。

自己主張しすぎて意見がぶつかる姿も見られたが、伝えたい気持ちを表現し、相手の気持ちを受け止める、折り合いを付けて遊びを広げていた姿に成長を感じた。

# 楽器作り

3歳児 ひまわり組  
～個々の興味から協同的なあそびへ～

さっかけ...  
参観日、おままごとをしてあそんでいる子が、フライパンをギターのようにしたり、並べた食器を、管やお玉で太鼓のように叩いて演奏することをあそんでいた。ままごとコーナーとしてのあそびが広がらず、困って終わったが子どもたちが楽しそうに、あそんでいる姿を見て、実際に作ってあそんでみては、と思い、楽器作りを提案してみた。



子どもたちが作りたい楽器をイメージできるように写真を用意した。



イメージ

写真の中からどんなギターにするかお友だちと考えています。

友だちが作った楽器を見て「ほくの作りたい」と空き箱とダンボールで、太鼓を作りました。



友だちの作ったギターに興味を示し見えています。



工夫

できたギターを嬉しそうに友だちや先生に教えています。



集中

本物のギターの大きさに合わせてダンボールを切り、ペンを使い丁寧に色を塗っています。

缶やプラスチックなど素材の違う廃材を用意した。



発見

叩いた時の音や、感覚の違いを楽しんでいます。

様々な材料を使い太鼓を作り直して、ドラムを作りました。



誕生会

みんなに見てほしいと子どもたちの要望があったので、誕生会の時に、みんなの前で、演奏会をした。



あそびの共有

みんなに、演奏を見てもらい満足そうに合奏しました。

## 生活発表会

発表会の最後に、子どもたちの大好きな曲に合わせて、演奏した。



表現

お父さん、お母さんに見てもらって楽器を作り直しはりきって演奏しています。



### 考察

最初は、興味のある子数名だけで作っていたが、周りの子や他のクラスに広がり、異年齢との関わりにもつながった。

同じ楽器でも、いろいろな素材や用具を工夫し、それぞれ違う、一人ひとりの個性が出ていた。また、友だちが作っている姿を見て、アイデアを出したり、手伝ったり、協力している姿も見られた。

誕生会や生活発表会など、大勢の人に見てもらい、自分の楽器のイメージを動きで表現したり、奏者を演じてあそんだりする楽しさを味わうことかできた。

今後、友だちの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わうテーマを子どもたちと見つけていきたい。

どれに  
しようかな？



大きいギター  
も作りたいな

これ見て  
ギター作ってみ  
たら？

これかっこいい

#### 状況・経過

事のはじまりは参観日。数名の子どもたちが、ままごとコーナーの食器や調理器具をひっくり返して、箸やお玉で太鼓のように叩いて遊んでいた。

ままごとコーナーでごっこ遊びの展開を期待していたのが、演奏会になってしまい、ままごとができなくなってしまった。

ままごとコーナーで調理器具や食器を叩いている子どもたちの表情は楽しそうだった。しかしコーナーとしては、その場所をままごとコーナーとして発展していきたいと思っていた。

#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

それならば、楽器に興味があるのかと思いつき後日、楽器の話をした。すると子どもたちから作りたいとの声があがってきた。そこで、子どもたちには何の楽器を作りたいか聞いてみた。すると、ギター・ドラム・ラッパなどの色んな楽器の名前があがった。

ギターも種類がたくさんありHPからいろんなギターを印刷し、子どもたちに紹介すると各々自分のお気に入りのギターを見つけて作り出した。

#### 考察（育ち・学び）

楽器を作り出すと、自分のこだわりの部分が見えてきた。大きさを実物大のギターにしようとする子、色を銀色のラッパにする子、音色まで考えて作るドラムなど、楽器の求める部分に違いがあることに気がつく。

楽器が出来上がるにつれて、友だち同士で演奏会が開かれ、一緒に活動する喜びが生まれた。そこに最初楽器作りには興味が無かった子も、演奏をしている様子を見て、次第に興味をわき作り出した。


その後、部屋で演奏、誕生会、生活発表会で披露し作ったもので表現していった。人前で披露することで表現する満足感と達成感を味わうことができた。

4歳児 ぱんだ組「かっこいいなきりん組」

**か、こいいなき... きりんぐみ** 凧りあそびに挑戦

年長児が生活発表会で「どろぼう学校」の凧をしたのを見て、憧れの気持ちを持ち、凧りあそびを習得した。そこで保育者が道具を作ってみる?と働きかけたことで、道具作りが生まれた。初めは、どろぼう隊の子が使っていた凧に合わせて、お友達が作っていた。

B「Aくんが作った凧より大きいよ」



A「くんと比べて、自分の作った物の方が小さいと気付いたBくん。よりよい物を作りたいという気持ちが生じたようである。」

年長が実際に凧で使ったものを見に行きたがるBくん。

B「きりん組の凧でんかやあそび?」  
B「何でだんかやあそび?」  
C「おどろぼう隊!」  
B「んーだんか。」

Cちゃんが、ラップの芯があることに気が付いた。

B「どろぼう隊に、これを作らしたん?」  
C「これでだんか?」  
「じゃあ凧にやってみよう!」

年長の先生に聞きに行ったところ、ラップの芯で作っているとわかりました。

B「んー、でんか?」  
C「これで、だんか!!」

↓

自分の思ったようにいかないのではと不安を感じています。4歳児ならではの思考なんです。

B「おどろぼう隊!」  
「これをだんか?」  
B「うーん」  
「もう少しくんと比べよう?」  
B「うーん... 何でいい?」  
「どうぞ。」  
B「ありがとう。」

自分の作りたいものを作るために必要な材料の量が、イメージできているのでこの発言が「でた」でしょう。

作り方の道具をしっかりと作られています。

凧りを作っている様子。はみりや折り紙(紙)とらえておいておきます。

自信のなさが伺えることがあったが、保育者がきっかけを作ったことで、生き生きと活動する姿があった。自分のやりたいことをイメージし、それに向かって自発的に行動できたことは成果と感じる。

凧りあそびの様子








## 5歳児 きりん組「いかだ作り」

A君  
何しとん？



ここから水が入る  
がもしれんから止  
めとんや

### 状況 経過

牛乳パックでのいかだ作りでは、水が入り沈んでしまった。一人の子のアイデアからペットボトルで作ることになった。A君は前回の経験から、水が入らないようにと蓋にガムテープを貼っている。それを見ていた周りの子も彼の考えに賛同し、手伝いを始めている。

### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

A君は、四月生まれで考察力に長けているが自信が持てずリーダー性は発揮しにくく、リーダー格の子の意見に従い行動する姿が多かった。ペットボトルと蓋との境目ではなく、蓋の側面にだけ、ガムテープを貼り付けていたので防水性はないと見てすぐわかったが、彼が初めてリーダー性を発揮して始めた行動を尊重したいという思いから、あえて助言はせず、彼の提案、行動を見守った。

### 考察（育ち・学び）

軽いものは浮く・重いものは沈むという物の性質を理解し、その性質は普遍的だということも理解しているので、自分の考え・行動に自信を持っている。その知識を活かそうとし、友達に伝え協力して活動できている。そこで普段は出せないリーダー性が発揮できた。また、この活動を絶対に成功させたいというA君の思いの強さが伺える。

# カプラであそぼう!!

くふじ組  
4歳児

## 積み

できたー!!

あー!!

こわれたー!!

集中して...そーとそーと  
崩れないように積み上げます!

横にして...

立てて...

せんせー!! おんせんできた!

2人で作ってたのが  
3人4人と  
集まってきて..

比較する

あいつのほこれくらい  
やった!!

あいたから  
みえる!

## 繋げる

はしご  
つらとも!

こんなん  
なた!

どんな  
形にする  
のか  
考える

もっとつなげて..

ひみつさ  
できたー!!

トンネルに  
なるとんやぞ!

ここ  
ちよと  
おそろ

協力して...積み上げます!

手元に集中して.

みんなで見やりながら..

せんせーみせ!  
おおま  
なけて!!

中にもはいとるぞ!

あー!!

カラカラカラ〜

ガシヤン!!

## 崩す

壊れても誰も怒らず、  
崩すのも楽しんで  
いました!

おまけ!!

こんなものも  
きれいに  
並んでました!!

形は1種類のみ積み木ですが、  
平面上に繋げ、積み上げることから始まり、  
立体(球体)へと様々な形に変化していく  
のが鬼まか的でもあります。  
繋げたり積み上げたりする中で、集中力や  
指先の器用さ、創造力や壊れても我慢して  
また作る忍耐力など、様々な力を育んでいます。  
また、一人あそびから二人三人と大人数での  
遊びにも発展していき、互いに息を合わせながら  
一緒に作り上げていく緊張感・達成感も共に  
感じているのですね! あそびの中で、様々な力を  
培い、友達との関係を広げ、深めている  
子どもたちです。



#### 状況・経過

夕方の自由遊びの時間、ホールでカブラを選び遊んでいたYちゃんとK君。八角形の筒状に積み上げていた。

#### 保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

友達との関わりを見守りながら、子どもたちの気づきに共感する。

#### 考察(育ち・学び)

高く積み上がったものを「温泉」に見立てたり、「さっきより大きくなった」「さっきのはこれくらいやった」と自然に比較し、頭の中で比較対象をイメージできる力がついてきた。



#### 状況・経過

前述の写真のあと、Yちゃん、T君、G君も遊びに加わった。そしてさらに高く積み上げようとする。崩れないようにそっと乗せることや、順番に乗せていくことを提案する姿がある。

#### 保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

子どもたちが自発的に案を出し合い、集中して取り組む姿を見守る。

#### 考察(育ち・学び)

落ちそうな所を慎重に直したり、1人ずつ順番にゆっくりと積み上げることで集中力や指先の器用さを育む。また、2人での遊びから大人数での遊びに発展し、友達と一緒に作り上げていく緊張感や達成感を感じている。

4歳児 うさぎぐみ「大きな 砂山作ろう！」

**大きな砂山作ろう!**

**4歳児 うさぎぐみ**

**友だちと協力し、砂や泥の感触を味わいながら作って遊ぶ。**

**まとめ**

- 友だちと協力する大切さを知り、色々な経験を活かしみんなで考えながら遊ぶようになった。
- 遊びの中で、感触を楽しんだり、色の変化、砂の変化に気付いた。
- みんなで楽しんで遊んでいる姿が自然と他のクラスの子ども達にも伝わり、一緒に遊ぶ姿も見られた。

**協力する**

どうしてのもっと大きくしようか!!

新しく買ってきたスコップで大きな山を作ろう事にしました!!

水かけたり、りたくなさー

同じ所にかけたら穴あきのあか

ちよと大きくなってきて

砂に水をかけると

水→砂→水→砂、この作業を何回もくり返し大きくしていきます。

さつさつと音がする

ツルツルになってきたー

協力して山を作ろう!

山を作る際に、自然と水かけ役が生まれ、

今度は、触感をお互いに夢中!! 友だちの真似をし、お化けに変身したりお化けの泥に大興奮。

お化けだぞ〜

協力して山を作ろう!

山を作る際に、自然と水かけ役が生まれ、

お化けだぞ〜

協力して山を作ろう!



#### 状況 経過説明

新しい大きなスコップを買ってもらったことにより、みんなが集まっての大きな砂山作りが始まる。最初は個々に山や泥団子を作っていたが、一つの山が大きくなってきたこともあり、「入れて」「手伝ってあげる」など友達が集まってくる。集まった子どもたちの中で自然に役割分担が生まれ、土を積む子、水を汲んで運ぶ子、さら砂をかける子などに分かれ、どんどん砂山が大きくなっていった。その様子を見ていた年長児も遊びにわりさらに大きな山になっていった。

#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・一人で作るよりみんなで作った方が大きくなり、楽しいことに気づかせた。
- ・どうしたら山が大きくなるか？崩れないか？固くなるか？など、失敗しながら今まで遊んできた砂遊びや泥んこ遊び・泥団子づくりなどの遊びの中で問いかけ、気づき、遊びが広がるようにしていった。

#### 考察（育ち・学び）

- ・砂とさら砂、水から泥水など、物質、感触の変化、違いに気づき遊びが広がった。
- ・友達と協力して作り上げる達成感を味わった。

1歳児 たんぽぽ組「夏のあそび」



3歳児 ばら組「おたまじゃくしを育てよう」



## 1歳児 たんぽぽ組「夏のあそび」



### 状況 経過

素材の感触を手や指で楽しみ、段々と手の動きも大きくなってきたため、絵の具を使ってフィンガーペインティングを行った。紙いっぱいに手を動かし楽しんだり、友だちの様子を見たりしている姿が見られたため、体全体を使って思い思いにぬりたくり、友だちと一緒に楽しめる大きな紙を用意し、ボディペインティングを行った。

### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

様々な感触あそびをする中で手・指の動きも大胆になってきたので、大きな紙を用意し、友だちや保育士と一緒にさらにダイナミックに遊べるようにした。友だちの遊んでいる姿を見せたり、保育者が一緒に楽しむことで“やってみよう”とする気持ちが持てるよう働きかけた。

### 考察（育ち・学び）

- ◎想像力・感性を育てる
  - ・指先を使っていろいろな感触を楽しむ経験は、脳の発達に大切である。
- ◎手先を器用にする。
  - ・こねる、のばすなど、指先を細かく使うことで手先の器用さが育まれる。
- ◎集中力が身につく
  - ・興味を持って遊び込む中で、自然と集中力が身につく。
- ◎友だちとの関わり
  - ・保育士や友だちがしている姿をじっと見ていたり、真似してみたりしながらあそびの楽しさを味わう。

生活科

つながり学習八雲保育園由良川小学校







**状況 経過** 11月8日「つながり活動の芋を選ぼう!!」  
 11日のつながり活動で調理する為の芋を、皆でより分けた。「大きい芋」「切りやすそうな芋」「紫芋」を選び、「小さい芋」「傷がある芋」「穴がある芋」は外し、自分達がふさわしいと思う芋を準備していた。全体の芋の数を数えたり、小学生の数をを知る為に小学生の名前を順にあげたりの事前学習となった。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 子ども達自ら、より分け準備する事で対象との関わりを深められると考える。又、芋の数と小学生の人数とを対応させたり、直接全体量を見る事で、実際の活動で芋を選ぶ時の手立てになると予想する。子ども達の言葉や姿によりそう事で「なぜ皮はむかないのか?」「ホットプレートでも煙が出るのか?」という新たな課題にもつながった。

**考察（育ち・学び）**  
 子ども達は、それぞれに根拠を持って、調理する為の芋を選んでいる。その根拠の基にあるものは、これまでのさつま芋とのかかわりや、調理の体験である。選んだ後、保育者が「いくつになった?」と問いかけると、順に数え「84」だと解答した。（実際は87）その数で足りるのかどうかを確かめる為、Sちゃんは「小学生は何人?」と尋ねている。小学生の名前を出し合い、小学生の数より芋の数の方が多かった為、「これでOK」と判断していた。  
**発展**  
 ・皮や煙について疑問を持った事は、次の活動の際、学びのポイントとなるであろう。



**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 活動後、ふり返りシートを考察して掲示し、翔太の疑問をクラスの皆にも発信した。デンブの行方を子ども達と共に追いかけて、栄養士の解答に保育者自身も気づきを深めた。

**考察（育ち・学び）**  
 1年生、園児共にそれぞれ「デンブン」についてのかかわりを深めながら、本時の活動に臨んでいる。その過程の中で、今回は紫芋がふくまれていた事により、溢れだす程のデンブンを目の当たりにし驚きと興奮につつまれた。それをきっかけに切り方や焼け方、味について紫芋と普通の芋を比較したり、色の変化に興味深く見たりし、感想を交流しあっている。色の変化に伴い、見えていたデンブンが消えてなくなった事は子ども達にとって不思議を感じる現象となった。活動後、園児は「デンブンどこいったん?」という言葉で栄養士に投げかけた。加熱によってデンブンが甘みへと変化した説明を受け、デンブンが消えた事と美味しかったこととをつなげて考えていた。

**状況・経過 事前学習**  
**発見**  
 園児は「金曜日はカレーの日」の調理体験でじゃが芋のベタつきに気づき「石けんが出た」と表現  
**研究**  
 そのベタつき「石けん」について調べる事で「デンブン」という言葉につながり、デンブンが身体の中でエネルギーになる事を知る。  
**提案**  
 教師が1年生に対して、今回の活動の下準備として「さつま芋について調べておいてね」と投げかける。  
**家庭とつながる**  
 S君が家庭でその事を発信した事により、保護者が「デンブンのとり方」をネットで調べ、S君に知らせると共に、学校へも資料を持たせてくれた。  
**対象とのかかわり**  
 ①さつま芋をおろす  
 ②ガーゼでしぼる  
 ③乾燥させる



風ないのに、なんでそんな飛んだんかなあ？



風もないのに〇〇くんの高くあがったで！

そうか！  
だから〇〇くんのよくあがるんや！

そのぶんめっちゃ早く走ったからや！

#### 状況 経過説明

毎年、年長が製作として行う凧作り。昨年の年長が作るのを見ていて、憧れや期待をふくらませ、意欲を持ち作り上げた。部屋に飾ると「これ私の」「僕の」と嬉しそうに話す。作っている時から揚げに行くのを楽しみにしていたが、みんなで揚げに行こうと決めた日、天気が悪く、体育館の柔道場を借りる。凧をしならせ、糸の長さの調整を子どもと一緒に保育士が行う。今までの経験から、走ると揚がるのを知っている子どもたち。「やったあ！」「あがった！」子どもたちは走り回る。友だちの高く揚がる凧。

#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

自分が丁寧に作り上げた凧。思いきり凧揚げを楽しむ中で、風を感じて走り回り満足感を味わってほしい。

#### 考察（育ち・学び）

- ・自然の風がない分、自分が思いきり走れば風が起き、凧が高く揚がるのに気づく。
- ・友達と一緒に揚げることで「私も」「僕も」という気持ちになり、意欲・挑戦につながった。





#### 状況 経過説明

園庭あそびに外に出たが、寒いと言い出す姿がある。保育士から寒い時はどうしたら暖かくなるのかを問われ、走りに行き体を暖めに行く子どもの姿があった。数人のお友だちも真似て走り、体を動かし暖める姿がある。走った後に自分の心臓の鼓動の変化に気づき、担任や友だちに知らせたり、日々の生活の中で体験した鼓動の変化を思い出し伝え合う姿があった。

#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・体を動かすことで暖かくなることに気付くよう声をかけた。

#### 考察（育ち・学び）

- ・体を動かすことによって心臓の鼓動が異なるなど、自分の体の変化を知り、体のしくみに興味・関心を広げていくきっかけとなった。
- ・気付いたことや体験したことを、友だちや保育士に伝えあうことで知っていることを共有することができた。



#### 状況 経過

友だちの心音を聴診器で聴き関心をもった子どもたちは、おじいちゃんやイヌやネコの心音はどんな音だろう？また、妊婦の看護師のお腹にいる赤ちゃんの心音はどんな音なんだろう？と興味や好奇心がどんどん広がっていった。看護師の先生にお願いして赤ちゃんの心音を聴かせてもらえることになり、期待いっぱいの子どもの姿があった。

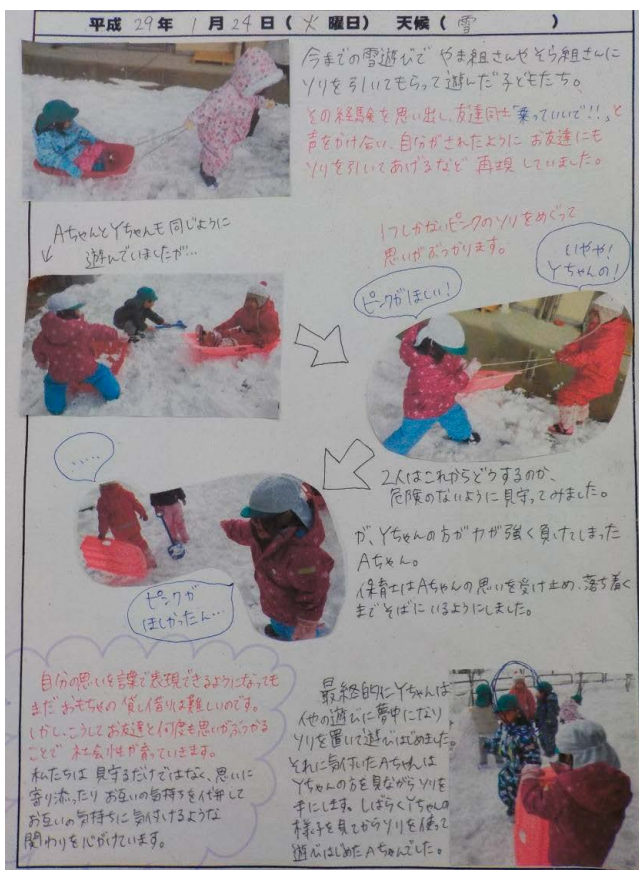
#### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・聴診器を自分たちで扱えるよう配慮した。
- ・看護師と関わる時間や実際に聴診器を使い、触れ合う機会をもった。
- ・振り返りの中で、自分たちの体験を共有した。

#### 考察（育ち・学び）

- ・聴診器を使って友だちの心音や、お腹の中の赤ちゃんの心音を聞いたことで生きている音を実感できた。
- ・看護師の言葉や実際に心音を聴いたことで、自分たちもお母さんのお腹の中にいたという事実を再確認したり、生まれてくる命を心待ちにする気持ちが芽生えた。

2歳児 にじ組「ピンクがほしい！」



Aもピンクがほしい!

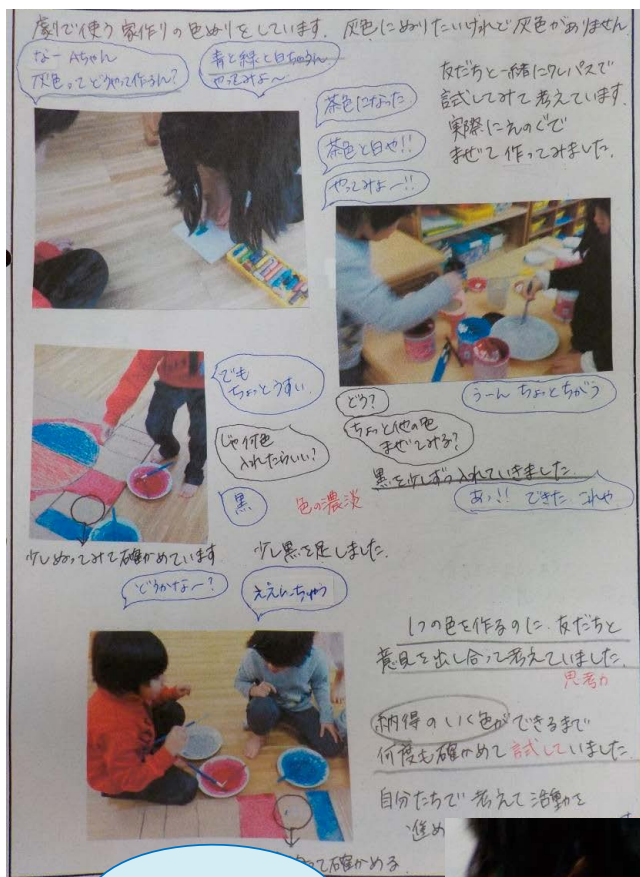
いやや Yちゃんの!

**状況 経過説明**  
 年長、年中児との雪遊びの中で、ソリに乗せてもらい引いてもらった経験を思い出し、自分達も友だちを乗せたり、友だちに乗せてもらうことを楽しんでいた2歳児の子ども達。最初は、お互いをソリに乗せて遊んでいたAとYだが、いろんな色のソリがある中でも特に人気のある、1つしかないピンクのソリをめぐる2人の思いがぶつかった。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 ソリの数は、友だちとの関わりも持てるよう、多すぎたり少なすぎたりしないよう配慮し準備した。ピンクは1つしかないことで、取り合いになるかも知れないことは予測されたが、すぐに仲裁するのではなく、危険のないよう配慮しながら、お互いが自己主張する姿をあえて見守るようにした。ただ見守るだけでなく、子どもの思いに共感し、受け止め代弁することで十分に自分の思いが出せるように関わり、自分の思いを出すことが、相手の思いに気付くことにつながるよう意図して関わった。

**考察（育ち・学び）**  
 友だちとの関わりの中で自分の思いを十分に主張し、思いを言葉で表現する力が育っている。自分の思いを主張し、保育者に受け止められる経験を通して、相手の思いにも少しずつ気付き、全てが自分の思い通りにならないことにも気付き始めている。自分のことを信じ、見守ってくれる保育者に支えられながら、気持ちを立て直していくようになってきている。

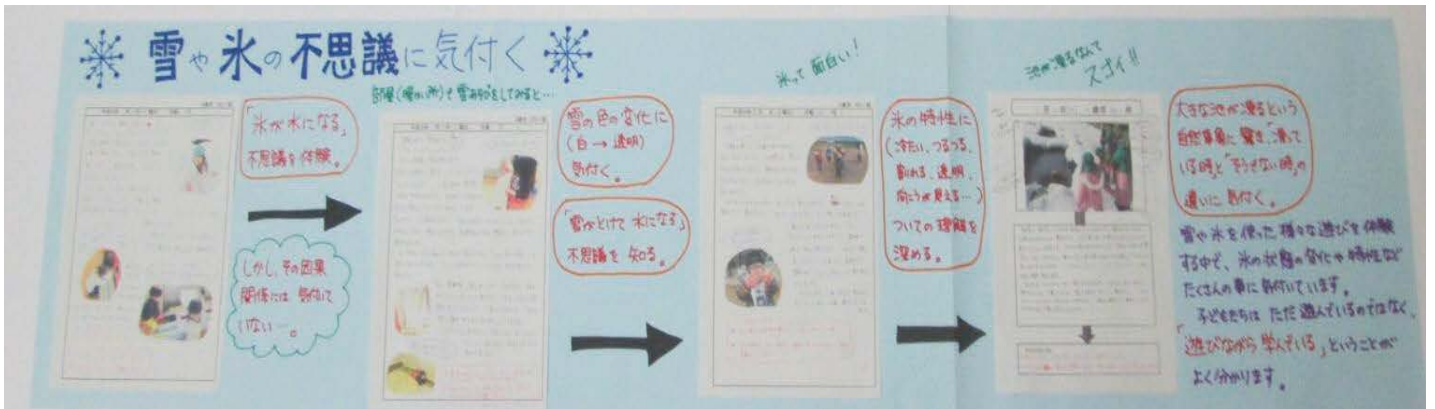
## 5歳児 やま組「灰色を作ろう！」



**状況 経過説明**  
 劇あそびで使う家作りをしている子ども達。灰色にぬりたいけれど灰色の絵の具はなく「灰色ってどうやって作るん？」と友だちに相談をもちかけ、灰色を作るにはどうしたらいいか、友だちと試行錯誤を始めた。まずは、クレパスで色々な色を混ぜて試し、「茶色と白だ」という結論にいたり、実際に絵の具で作って試し始めた。実際に絵の具で作ると、予想していた灰色とは異なり、「灰色作り」は難航してしまう。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 保育者が色を作ってしまったら、答えを出してしまうのではなく、子ども達が自ら考えたり試したり、話し合ったりすることができるよう、子ども達の姿を認め、あえて見守るようにした。これまでの、あそびや生活の中での経験から、子ども達だけで色作りをすることが可能だと判断し、子ども達にまかせ様子を見ていたが、試行錯誤を続ける中、これ以上展開が進まない様子だったため、きっかけとなる声かけを行った。お互いの思いや考えを共有し、工夫したり協力する充実感を味わいながら、やり遂げることを意図し関わった。

**考察（育ち・学び）**  
 自分達が試した2色の組み合わせでは、灰色はできず、絵の具の量を調節してみるが、それだけでは灰色にならないことに気付いた。保育者の言葉をきっかけに、3色目を混ぜることに気付き、失敗を振り返り、さらに探究しようとしている。同じ目的に向かい、自分の考えを伝えたり、相手の思いを受容しながら創意工夫し、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、よりよいものにしていこうとする力が育っている。



**状況 経過説明**

中庭で雪や氷で遊んでいる時、1人の子(K)が「氷を持って帰る」と言って部屋まで大事に持って入り、ナイロン袋に入れていた。余程大事だったのか、そのナイロン袋を持ったまま遊戯室に遊びに行き、仲良しのお友だち(M)に見せてあげようとした。しかし、その時に氷は溶けてしまっていてナイロン袋からは水だけが出てきたのであった。

**保育者の関わり(ねらい、意図、環境)**

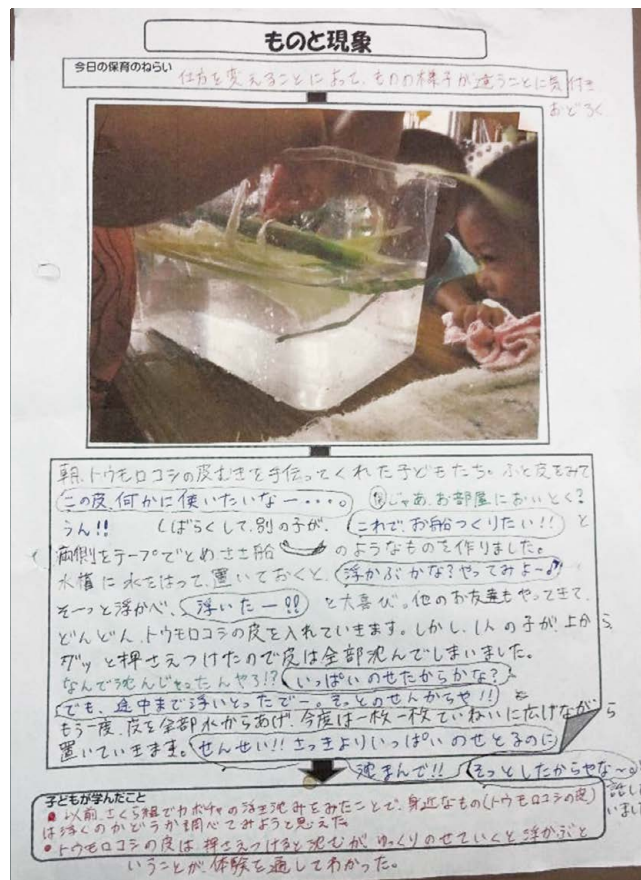
「氷や雪の特性や冷たさなど冬の自然を感じる」ことをねらいに中庭での外遊びをおこなった。ツララ存在に気付く、冷たさや感触が味わえるよう言葉をかけたり、手渡してみたりした。「持って帰る」と子どもが言った時に、子どもの思いを大切にに関わり、溶けてしまうことは容易に想像できたが、それを経験することもよいだろうと思い、ナイロン袋に入れて持って行く姿を見守った。暖かい室内で遊んでいるうちに氷が溶けてしまう不思議に対してもあえて答えは口にせず、実体験を見守り「何でかなあ?」「不思議やなあ...」と思いに共感するようにした。

**考察(育ち・学び)**

- ①氷の特性(冷たさ、ツルツルした感触、割れる事など)を感じた。
- ②「氷」が溶けて「水」になる不思議さに気づいた。
- ③大切なものを友だちに見せてあげようとする。(伝えたい対象の広がり)
- ④水が出てきた時、発見したことを自分なりの言葉で伝えようとしている。
- ⑤「氷=固まっている」「水=液体」という概念を理解し、違いを感じている。



## 4歳児 ゆりぐみ「とうもろこしの皮が浮いたよ」



(このお船) 浮かぶかな？

やってみよう！

浮いたあ～！

あっ・・・沈んだ。

なんで沈んだんかなあ～



いっぱい載せたからかなあ

でも途中(いっぱい載せたけど) 浮いとったで！

そっと載せんからや！

さっきよりいっぱい載せるとるけど沈んで～！

そっとしたからや！

**状況 経過説明**  
朝トウモロコシの皮むきをした時に皮で遊ぶ子ども達。すると一人の子が、皮の両端を両面テープで留めてささ船を作った。船が水に浮いたことを喜んでいるところに他児が寄ってきて、更にトウモロコシの皮を船の上どんどん積み重ねていく。更に浮いた船の上から少し力を加えると全て沈み、浮かび上がってこなくなった。沈んだ皮を一旦全て引き上げ、今度は一枚一枚そっと重ねていった。

**保育者の関わり(ねらい、意図、環境)**  
・以前子ども達がかぼちゃが水に浮いたことを経験していたので、浮き・沈みの遊びに発展するのでは？と考え、水の入った水槽を室内に準備した。  
・皮が沈んでしまった原因を自分達で予測したり、理解していることを試す質問をした。

**考察(育ち・学び)**  
・ささ船に載せた皮の枚数が同数でも、皮の積み方(載せ方)や力加減の違いで、浮いたり・沈んでしまったりと結果が変わることに気付いた  
・トウモロコシのささ船と水との関係性の中で起こる事象に興味・関心を持ち、自分なりに考えたことを試し確信する



1、2歳児 こすもす組「三輪車でGO!!!」





**状況・経過**  
 子ども達が、夏に園庭に穴を掘り遊んでいた。その穴に、水がたまっているのを見つけたYが、三輪車に乗って水たまりに向かう。三輪車をこげるようになって間もないYを先頭に、4人の子どもが後に続く。  
 前日、幼稚園で同じように水たまりに入り、びしょぬれになったY。今回はゆっくりと慎重に通り返けていった。5人で何度も通るうちに、水たまりの中がドロドロにぬかるんできて、タイヤが入りこみ動かなくなった。困惑する中試行錯誤し、Yは立ちこぎをして脱出成功、Sは地面をそーっと蹴って前進した。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 やりたい思いに応える環境（保育の姿勢）  
 水たまりは、子ども達にとって、魅力的な場であると感じたと同時に、前日水たまりでびしょぬれになった経験をしていたので、今度はどうするかな・・・と思い、あえて残しておいた。  
 子どもの主体性を尊重する  
 子ども自らがじっくりと考え、やってみようという気持ちを大切にしかつたので、そばで見守った。

**考察（育ち・学び）**  
 運動機能が高まり、三輪車がこげるようになる。また、平衡感覚や、全身のバランスと調整の力を駆使できるようになってきた。前日の経験を覚えており、ぬれずに脱出する方法や、友だちを模倣するだけでなく、自分なりの方法を見いだすなど、試行錯誤する中で考え、挑戦する気持ちも育ってきている。

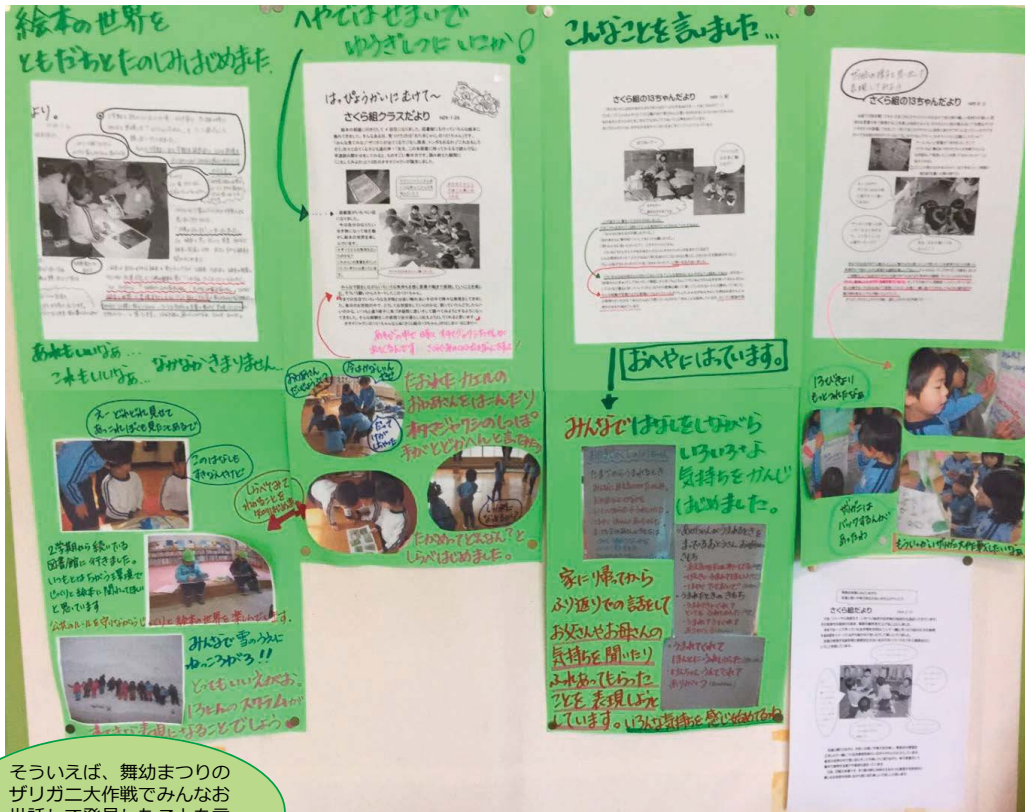


**状況・経過**  
 友だちと一緒に、三輪車に乗って何度も水たまりを通り抜けるK。ぬかるんできた水たまりに遭遇した時、いつもの調子で通り抜けようとしたが、はまりこんでしまい身動きできなくなった。そして泣いて訴える。保育士は、Kとやりとりをした後、少し手助けしようと背中を押してみたが、足にグッと力を入れて拒否をした。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
 子どもの気持ちに寄り添う  
 泣くという姿に沢山の思いがあふれていると感じ、Kのモヤモヤした気持ちを理解し、受けとめようと言葉をかけた。しかし、足にグッと力を入れた姿から「自分で乗り越えたかった」という思いに気づき「Kくんも通ってたかったな〜。」という言葉かけた。

**考察（育ち・学び）**  
 「何度も通ることができたのに... 友達は通り抜けることができたのに... なぜ?」という悲しい気持ちやくやしい気持ちを表現し、自分が置かれた状況を「入ってるー!」と言葉で伝えられた。Kのペダルを動かさない足に込められた力強さから、「自分で」という強い意思を感じる。自分で行こうと思った気持ちを認め、尊重していくことが大切であることに気づかされた。

5歳児 さくら組  
「さくら組の13ちゃんだより・・・ザリガニの様子を思い出して表現してみよう」



そういえば、舞幼まつりのザリガニ大作戦でみんなお世話して発見したことを言っていなかったっけ？

これ見たらわかるんちゃう

「ザリガニが怒った時ハサミを上にあげます」って言うってたん誰やったっけ？



あつ、これやで。ザリガニは石の間に逃げるって書いてあるわ

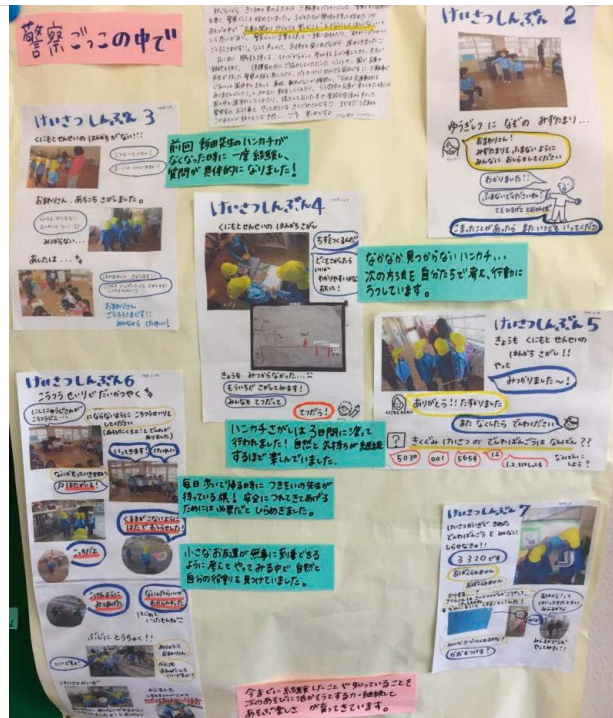
先生、それが書いてあるんどこ？

**状況・経過**  
発表会にむけて「オタマジャクシの101ちゃん」に取り組んでいる。話の中にザリガニの場面があった。ザリガニになりきって表現を楽しんでいたが、お話の中のザリガニはとてもこわそうだということに気がついた・・・「こわそうってどんなふうにしてたっけ？」と保育者が問いかけると、「うーん」と言葉が出てこなかった。その後の保育者の言葉で、以前経験した舞幼まつりでの表現やドキュメンテーションなどの記録を思い出し、この会話となった。舞幼まつりではザリガニを育てた経験を生かして、世話をした気づいたことや動きを体で表現することを発表した。

**保育者の関わり（ねらい、意図、環境）**  
春に世話をしていたザリガニの振り返りや気づきの記録があるということや舞幼まつりで表現したことに気付かせるように言葉をかけた。

**考察（育ち・学び）**  
・今までの生活の中で心動かしたことに触れながら感じたことや思ったことを表現に生かそうとしている。  
・状況に応じて言葉にして伝えようとしている。  
・春のことではあるがザリガニに対する気持ちが継続している。  
・保育者の言葉がけやドキュメンテーション等の掲示物で一人の学びや気づきが共有され、みんなの学びとなっている。  
・掲示物を興味をもって読んだり見たりすることで文字に対する関心が高まっている。

## 4歳児 きく組「思いを伝える・思いに気づく」



どうしたらよかったのかな？

A: ストップって言わなかった僕が悪かった。

A: HちゃんとC君を止めなかった僕が悪かった

A: Kくんの話も聞いてあげないとイケなかった

A君だけが悪いのかな？



どうしたの？

K: なんで逃げるん

A: だって泥棒やんか

K: 今日泥棒ちゃうのに

A: だって昨日はしてたやんか

H: ...

### 状況・経過

昨日警察ごっこをしている中で泥棒役をしていたK。この日も警察官になりきって遊ぶ子ども達3人はKが泥棒になっていると想定し、「泥棒やー」と追いかけていた。Kが警察官になりきっている3人に「今日は泥棒じゃない」と訴えるが、3人は聞く様子もなく行ってしまった。Kは泥棒のつもりではなかったが、AはKが泥棒だと思っており、そこに気持ちの行き違いがあった。Kが涙を流しながらAに思いを伝えた。

### 保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・状況を把握した後、お互いの気持ちをぶつけあえるように少し離れて見守った。
- ・気持ちを伝え合うことはしているが、相手の気持ちに気づくことやどうすればよかったかを考えられる時間を警察役の3人につくった。
- ・言葉では表現しなかったHにも自分なりの言葉で気持ちを表現し伝えてほしいが、そのための関わりが弱かったのではないかな。

### 考察（育ち・学び）

- ・自分の思いを自分の言葉で伝えている。
  - ・自分の思いを伝え合い相手の思いに気づく経験になった。
- クラスの中では言葉数が多いKとAであるが、全体としては自分の思いを言葉にして伝えることが少なく、いざこざが少ないクラスである。このようにいざこざになってお互いの思いを言葉で伝え合う姿が他の幼児への刺激になってほしい。
- また、自分の思いがありながらも周りに流されがちな子どもたちも、自分の考えに自信を持って伝えられるようになってほしい。まずは、表現しやすいようにうれしい、楽しい気持ちを言葉にする機会をつくり、自分の思いが言えたことを認めていく関わりを心がけていきたい。